

# 令和 6 年度 岡山市防災キャンプ推進事業 事例報告書



令和 7 年 3 月 17 日

岡山っ子育て成局 子育て支援部

地域子育て支援課

# は じ め に

平成24年度より、公民館単位での取り組みとして始めた「防災キャンプ推進事業」ですが、町内会や婦人会、消防団をはじめとする地域団体のみなさま、そして児童・生徒のみなさま、ご家族のみなさまなど、多くの方々のご協力・ご参画のもと令和6年度は13公民館で計21回開催・延べ 797 人の児童・生徒が本事業へ参加していただき、無事に事業を終えました。

令和6年度は初めて「南海トラフ自身臨時情報(巨大地震注意)」が発表されたほか、令和6年奥能登豪雨など大規模災害が発生するなど、防災教育の重要性は高まっており、実施状況をみなさまと共有し、継続した防災教育の実施のほか、新しく本事業に参加する際に役立てていただきたいと考えています。

最後になりましたが、公民館職員及び地域担当職員の方々をはじめ、みなさまのご協力により円滑に事業を実施することができました。事業実施にあたりご尽力を賜りましたみなさまに、心からお礼申し上げます。

令和7年3月 岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課

# 目次

## I 令和6年度防災キャンプ推進事業実績

操山公民館	1
津高公民館	5
高松公民館	9
吉備公民館	16
上道公民館	24
足守公民館	28
旭東公民館	31
福浜公民館	35
光南台公民館	39
御南西公民館	42
御津公民館	49
建部町公民館	53
瀬戸公民館	61

## II 資料編

岡山市防災キャンプ推進事業実施イメージ	68
令和6年度岡山市防災キャンプ推進事業実施要項	69
参加実績推移(令和元年度～令和6年度)	72

# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立操山公民館

実施施設名

岡山県立岡山操山中学校

## 1. 事業趣旨と目的

避難訓練及びその他体験活動を通して、災害発生時、自分自身で命を守るために必要な知識や対応方法を学び、防災意識の高揚を図る。また地域住民が集うことにより、児童生徒と地域住民の交流の機会とし、共助できる関係づくりの一助とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	宇野学区防災訓練			
実行委員会名称	宇野学区防災訓練実行委員会			
実施期日	第1回	令和6年12月7日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	受付準備	町内会・公民館	机配置・展示・避難所準備	0.5 時間
	避難所受付	町内会・公民館	避難誘導、アルファ米他配布、アンケート配布	0.5 時間
	避難所生活体験	町内会・公民館	AED、消火器、トイレ、ベッド、シェイクアウト他	1 時間
	防災研究発表	県立操山中生徒	①防災グッズ②敷地内の安全点検報告と提案	0.5 時間
	反省会・防災講話	森田 靖氏	本日の振り返り及び防災講話や各ワークの講評	0.5 時間
	閉会式・片付け	全員		0.5 時間
合 計				3.5 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	10 名	中学生	42 名	高校生	5 名
未就学時・乳児	3 名	家族・地域住民	145 名	教職員・施設職員等	5 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	16 名
総 計					227 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	55 名	主 な 構 成 員	連合町内会、コミュニティハウス運営委員会、社会福祉協議会、婦人会、民児協、愛育委員会、交対協、交通安全母の会、環境衛生協議会、スポーツ協会、老人クラブ連合会、消防団宇野分団、小学校PTA、宇野小学校、宇野認定こども園、原尾島こども園、操山中学校、うのクラブの各代表者、公民館		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開 催 時 間	
	10月18日(金)	宇野コミュニティ	名簿の確認、今年度計画案の協議	2 時間	
	10月31日(木)	操山公民館	実施項目と役割分担、避難所配置図の協議	2 時間	
	11月16日(土)	宇野コミュニティ	体育館の会場図、訓練計画案、準備品リストの確認	2 時間	
	11月28日(木)	操山公民館	最終確認、各役割分担の確認	2 時間	
	12月26日(木)	宇野コミュニティ	反省会及び今後の課題検討	2 時間	
合 計				10 時間	

公民館名	岡山市立操山公民館
実施施設名	岡山県立岡山操山中学校

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	宇野学区防災訓練			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 2 月 22 日 から 6 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	報告掲示		操山公民館ロビーに展示	時間
				時間
合 計				時間

### 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会及び各種団体の方々は、毎年協力体制が充実しており、コロナ禍で実施出来なかった時期は、防災意識が薄れがちでした。</li> <li>・昨今の頻発する災害に地域の方々も危機感を感じて取り組むことができた。特に会場である県立操山中に避難するの地区の方々は、真剣さが細部に感じられた。</li> <li>・今年度は、実施場所の県立操山中学校の生徒による防災研究発表に多くの参加見学者があった。</li> <li>・AED体験、段ボールベッド、トイレ、消火器などの訓練も大変講評だった。消火器の使い方は、初めてという方もおられ、よい経験になったと話していた。</li> <li>・今年初めて行ったシェイクアウト訓練は、大変臨場感があった。訓練の回数を重ねる毎に、参加者の方々の災害への関心が上がっておられるように感じた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、過去の防災キャンプでの企画と同じではなく、新しい企画を考えていきたいと考えている。</li> <li>・今年度は学生ボランティアの方が企画されると地域の方々の賛同が得られ、参加率が上がっていた。そのためにも、学生ボランティア(中、高、大学生)の確保には、直前ではなく、年度の早い段階で関連機関に声をかけることの重要性を感じた。</li> <li>・公民館でも、地域の方々が興味を持ちそうな防災情報をお知らせするように日頃から、知識を増やしておきたい。</li> <li>・昨今の頻発する地震を忘れずに、迫りくる南海トラフ地震に向けて地域の方々により良い情報を発信できるように努めたい。</li> </ul>

7. 活動の様子

避難所受付



安全安心ネットワークの皆さんで団結して、机の運搬や配布品の準備、防災対策展示などを準備しました。そして、校門受付より入口避難誘導員を配置し、避難所へ円滑に参加者が入れるための準備をしました。入場後は、受付で、避難所利用者登録票・名簿に記入をお願いしました。

避難所生活体験



開会式のあと、参加者を3班に分け、AED、避難時のトイレとして簡易トイレを組み立てて、凝固剤で固めて処理する体験をしました。消火器の使用方を宇野分団の皆さんに指導を仰ぎました。シェイクアウト訓練を本番さながらの緊張感で体験しました。

## 防災研究発表



岡山県立操山中学校の生徒による研究発表を2テーマで発表しました。①敷地内の安全点検報告・提案 ②防災グッズ企画発表でパワーポイントを使用し、熱心な発表でした。参加者の皆さんから質問も多数頂き、参加者と発表者が一体になり防災対策を真剣に考えました。



## 反省会・防災講話



防災コーディネーターの森田 靖氏による能登半島地震についての講話では、身につまされる状況の写真が多く、地震の恐ろしさを感じました。そして、皆さんも熱心に質問をされて、興味の深さを感じました。その後、本日の反省会を全員で行いました。

# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立津高公民館
実施施設名	岡山市立津高公民館

## 1. 事業趣旨と目的

津高地区の児童、生徒及びその保護者並びに地域住民が、防災に関する知識及び技術等を習得することにより、災害に対する意識を高め、いざというときに備え、協力して対策を取ることができるようにする。
(1) 児童、生徒及び保護者等の防災意識の向上
(2) 地域住民と児童、生徒の交流
(3) 防災のために必要とされる知識及び技術の習得

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	津高防災キャンプ(親子で体験・学ぼうさい！)			
実行委員会名称	津高防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 12 月 7 日 から 1 日間 リーダー研修		
	第2回	令和 6 年 12 月 14 日 から 1 日間 親子で体験・学ぼうさい！		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話	Team桃太郎	小学生向けの防災のお話(自助、共助、公助について)	1 時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法、煙道体験、水消火器、地震体験車、消防車	4 時間
	非常食体験	栄養改善協議会、愛育委員会	非常食(アルファ米)を用いた炊き出しと豚汁の提供	4 時間
	仮想体験	日本赤十字社	応急措置 避難所での生活	4 時間
	非常時持ち出し薬	しゅうじつ薬局	非常時持ち出し薬の説明 防災グッズ 非常食紹介	4 時間
合 計				17 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	33 名	中学生	34 名	高校生	1 名
未就学時・乳児	4 名	家族・地域住民	27 名	教職員・施設職員等	1 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			3 名	無償ボランティア	70 名
総 計					173 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	15 名	主 な 構 成 員	連合町内会、高齢者クラブ連合会、栄養改善協議会、愛育委員会、消防団、有識者		
会 議 内 容	会 議 日	場 所			開催時間
	9月24日	津高公民館	内容と進め方、役割分担		2 時間
	11月29日	津高公民館	当日の役割分担、スケジュール		2 時間
	1月31日	津高公民館	反省(アンケート結果)、来年事業		2 時間
合 計					6 時間

公民館名	岡山市立津高公民館
実施施設名	岡山市立津高公民館

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	津高防災キャンプの記録			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 1 月 6 日 から 90 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
			写真を中心に、視覚に訴えた防災キャンプの記録を津高公民館のロビーに展示	時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係団体等の協力により、小学生やその保護者をはじめ地域住民の防災意識を高めることができた。</li> <li>・学生スタッフの充実がみられた。(中学生スタッフ17人、高校生スタッフ1人、大学生スタッフ3人、地域スタッフ3人)</li> <li>・非常食や防災グッズを用意する必要性を十分に感じる事ができた。</li> <li>・学生スタッフが防災に関する知識や技術を習得し、それを小学生に指導する。後方から消防団等大人のスタッフが支援するという方向で事業を実施することができた。</li> <li>・学生スタッフ、地域スタッフともに、自主的かつ意欲的に活動して地域から高い評価を得た。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降も継続したいと考えている。</li> <li>・将来的には、今年度参加した小学生が、中学生スタッフ→高校生スタッフ→大学生スタッフ→地域スタッフとして活躍するように、循環に向けて頑張りたい。</li> <li>・また、今後、保護者には、地域スタッフとして活躍してもらえるように頑張りたい。</li> </ul>

公民館名

岡山市立津高公民館

実施施設名

岡山市立津高公民館

## 7. 活動の様子

令和6年12月7日(土) 学生スタッフ、地域スタッフ研修 13:00~16:00

心肺蘇生法、水消火器の講習を受けた。



令和6年12月14日(土) 親子で体験・学ぼうさい! 9:00~13:00

◇防災のお話(Team桃太郎)



◇非常食α米と豚汁



◇煙道体験



◇心肺蘇生法



◇地震体験車



◇水消火器



◇避難所生活 応急措置(日本赤十字社)



◇非常時の持ち出し薬(しゅうじつ薬局)



# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立高松公民館

実施施設名

庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

## 1. 事業趣旨と目的

地域住民が防災訓練や救護訓練を行うことで、防災・減災意識の高揚に努める。また、訓練参加により、地域住民相互の交流を図る場とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	第7回庄内学区防災訓練、第8回加茂学区防災訓練、第7回鯉山学区防災訓練			
実行委員会名称	庄内学区安全・安心ネットワーク、加茂学区安全・安心ネットワーク、鯉山学区安全・安心ネットワーク			
実施期日	第1回	令和6年6月16日から半日間		
	第2回	令和6年10月20日から半日間		
	第3回	令和6年11月24日から半日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	消防車両の見学	岡山西消防署	起震車、消防車両の設備・乗車体験	2.0 時間
	心肺蘇生体験	岡山西消防署他	心肺蘇生の基礎、AEDの使い方の訓練	5.5 時間
	応急措置訓練	岡山西消防署他	怪我や骨折時に身近なもので対応する訓練	5.5 時間
	パネル展示	岡山市危機管理室	被災地のパネルを見学	2.0 時間
	安否確認	安全・安心ネットワーク	招集時の名前、人数確認	1.5 時間
	消火体験	岡山西消防署	初期消火の訓練	3.0 時間
	非常持出品の展示	危機管理室、郵便局	一般的な持ち出し品の展示と見学、重さ確認	4.0 時間
	起震車体験	岡山西消防署	起震車で震度5程度の揺れを体験	2.0 時間
	簡易トイレの展示	岡山市危機管理室	段ボールトイレ完成品の展示・見学	2.0 時間
	簡易テント・ベッドの組立て	岡山市危機管理室	段ベッド・テントの組立・展示・見学	3.0 時間
	備蓄品の場所確認	鯉山・庄内小学校	校舎内に備蓄されている災害備蓄品の設置場所と現物確認	3.0 時間
	防火服試着体験	岡山西消防署	消防現場で着用する防火服を実際に着用	1.0 時間
	食器、スリッパ作り	愛育委員会	チラシや新聞紙などで災害時に使用できるスリッパや食器を作る。	2.0 時間
食料調達訓練	愛育委員会・栄養改善協議会、婦人会	アルファー化米の試食、炊き出しと支給秩序の維持訓練	2.0 時間	
合 計			38.5 時間	

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

### 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	66	名	中学生	0	名	高校生	3	名
未就学児・乳児	10	名	家族・地域住民	395	名	教職員・施設職員等	8	名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)				0	名	無償ボランティア	45	名
総 計							527	名

### 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	73	名	主な構成員	連合町内会、消防団、施設職員、青パト隊、民生・児童委員、保育園、幼稚園、小学校、愛育委員会、婦人会、栄養改善協議会、電子町内会、老人クラブ、体育協会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、郵便局、公民館				
会 議 内 容	会議日		場 所	協議内容等				開催時間
	9/2, 9/13		高松公民館	庄内学区防災防災キャンプ実施について				4 時間
	8/30, 9/20, 10/11		高松公民館	加茂学区防災防災訓練実施について				4.5 時間
	5/12, 6/2		鯉山コミュニティーハウス	鯉山学区防災防災訓練実施について				4 時間
	11/24		庄内小学校	防災キャンプの結果の振り返りと反省、今後の活動について				1 時間
	11/1		高松公民館	防災訓練の結果の振り返りと反省、今後の活動について				1 時間
	9/1		鯉山コミュニティーハウス	防災キャンプの結果の振り返りと反省、今後の活動について				1 時間
合 計								15.5 時間

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	令和6年度高松地区防災訓練発表会				
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 2 月 1 日 から 半 日間			
	第2回	平成 年 月 日 から 日間			
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要		活動時間
	訓練発表	庄内学区、加茂学区、鯉山学区、各安全安心ネットワーク	各小学校校区で実施された防災訓練の実施報告と次年度に向けた課題発表		1 時間
	講評・講演	岡山市危機管理室 井上義浩課長	地域の防災活動(高松地区を含めて)		1 時間
	講師に質問・話し合い	庄内学区・加茂学区・鯉山学区各安全安心ネットワーク	講演に対する質疑応答及び地域防災に生かすための意見交換		1 時間
合 計					3 時間

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>※各地域における年間の必須行事として、準備から実施まで地域に定着してきている。</p> <p>・庄内学区では今年度は今までと異なり、町内の会長・副会長・誘導員等、役を担っている方を対象に、小学校に災害で避難した際、どこに何があるかを知ってもらい、一次避難時の対応を経験してもらうことで、災害初期時のリーダーとしての役割を期待し、目的は果たせた。ただし、役員が毎年変わる地区もあるので数年は継続していく。</p> <p>・加茂学区では、水害の危険が隣り合わせにある。毎年、河川敷でこの訓練を行うことは、水に対する真摯な向き合いでもある。今年も、多くの住民が参加した結果は成功と言える。</p> <p>・組織の役職者が役割を果たし円滑に進行できたことに、各人の自覚が感じられる。また、炊き出しを実施したことや、無事に各行事を完遂できて「絆」の確認ができた。</p> <p>・鯉山学区では、昨年に引き続き小学校体育館内での実施だが、西日本豪雨災害のDVDの鑑賞後、テント・ベッドの組立てを実施したことで、より深く感じる事ができた。また、防災グッズの展示、説明に対する取り組みも参考になった。</p>
今後の課題	<p>・庄内学区 例年とは異なる訓練を行った結果、役割分担に不具合が見られた。町内の代表者は毎年変更する地域もあるので、継続した取り組みを行い、地域での対応を定着させていく。</p> <p>・加茂学区 町内会単位の自主防災会の設立促進・・・防火・防災の実践訓練 町内会単位の避難訓練・・・避難行動の周知、ルートの確認、合図の周知</p> <p>・鯉山学区 役職者への普及を目的として、この2年実施してきた。 今後、若い人にもっと参加してほしい。日頃から、防災について、学び・準備を行っていく。</p>

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

## 7. 活動の様子

・令和6年度庄内学区防災デイ・キャンプ(庄内小学校 体育館)

今年度の目的は、避難所の準備と運営。各町内会長による受付から始まり、岡山市危機管理課2名による、避難所の開設に対する講演、小学校内の備蓄品の場所確認を行い、参加者が体育館へ搬入し、簡易ベッド・テントの組立てを行った。また、防災グッズの展示及び解説を受け、自身の防災グッズの確認を行った。



受付体験



備蓄品の準備



会場づくり(区分け)



持ち出し袋の説明



心肺蘇生体験



参加者による後片付け

・令和6年度加茂学区防災訓練（足守川河川敷）

「加茂小学校創立130周年を記念して、児童の思い出となる防災訓練にする。」を合言葉に、カヌー体験  
消防ヘリの飛来を企画し、通常の消火訓練、食器・スリッパ作り体験、起震車乗車体験、炊出し等を行い、  
防災意識の定着を図り、学区の一体感を盛り上げた。



受付風景



カヌー体験



心肺蘇生



消火体験



起震車乗車体験



炊出し訓練

・令和6年度鯉山学区防災訓練（鯉山小学校、体育館）

今年度も避難所準備と運営を主目的として防災訓練を実施した。会場準備から地域の方に参加を促し  
実体験として経験を積んでもらった。特に震災体験のDVD鑑賞、避難持ち出し袋の確認等には現実的な  
質問があった。



参加者集合状況



会場準備



受付訓練



心肺蘇生



簡易ベッド・テントの組立て



DVD鑑賞

・令和6年度高松地区防災訓練発表会（岡山市立高松公民館2階 研修室、第2講座室）

令和7年2月1日(土)29名が参加。講師として岡山市危機管理室課長/井上義浩氏を迎えて開催した。

最初に各小学校区で実施した防災訓練の発表があり、訓練内容の良かった点、今後の課題などを発表し情報を共有した。その後、井上課長による「防災に対する取組」のテーマで講演が行われ、引き続き参加者による「これからの防災訓練」のテーマで討議が行われた。参加者による主な問題点。

・参加者が固定化している。若い人の参加を促していく必要がある。

・リーダー養成が必要。日頃から防災について学び、準備していく必要がある。

・地域に応じた防災マップの作成。避難方法の確立。

参加者は活発な意見交換を行い、今後の防災訓練の取り組みを学んだ。



全体風景



危機管理室井上課長による講演



防災訓練の発表風景



防災訓練の発表風景



各班での討議



各班での討議

# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立吉備小学校

## 1. 事業趣旨と目的

自助・共助に重点をおいた実習を計画し、住民と地域活動団体が協力して地域防災力を高めることを目的とする。様々な災害に備えて、避難所が開設された際の備蓄、避難経路、避難所運営の体制づくりと防災リーダーの育成をめざす。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	第13回防災キャンプ				
実行委員会名称	吉備学区防災キャンプ実行委員会				
実施期日	第1回	令和6年10月5日から1日間			
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間	
	実習	起震車	震度7地震体験		2.5時間
		煙道体験	火災の煙から身を守る		
		マンホールトイレ	吉備小に設置されたマンホールトイレの設置訓練		
		給水訓練	吉備小の応急給水栓説明、給水車からの給水訓練		
		電気自動車	災害時の電気自動車活用法、注意点		
		簡易ベッド・間仕切りづくり	段ボールベッド、発泡スチロールベッド、間仕切りの組み立て		
		防災グッズ展示	転倒防止器具など防災グッズについて実演を交えた説明		
	バッククッキング	大鍋で炊飯とカレー作り			
閉会		修了証授与・アンケート記入・片付け	0.5時間		
合計				3時間	

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	73名	中学生	21名	高校生	名
未就学時・乳児	6名	家族・地域住民	52名	教職員・施設職員等	3名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			4名	無償ボランティア	54名
総合計					213名

## 4. 実行委員会実績

構成員数	23名	主な構成員	吉備学区連合町内会、吉備中学校、吉備小学校、小・中PTA、民生委員・児童委員、愛育委員、体育協会、消防団、栄養改善協議会、ボーイスカウト、防災ボランティア		
会議内容	会議日	場所	協議内容等		開催時間
	5月9日	吉備公民館	防災キャンプの概要・チラシ(案)		2時間
	6月6日	吉備公民館	実施計画について		2時間
	9月5日	吉備公民館	日程と役割分担(最終確認)		2時間
	10月19日	吉備公民館	反省会		2時間
合計					8時間

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立吉備小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	公民館ロビー展示(年間常設)			
実 施 期 日		令 和	年	月 日 から 日間
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	
	ロビー展	公民館職員	公民館事務所窓口上部に掲示して、館の利用者に年間を通して啓発をしている。	
	合 計			時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉備小学校での開催 避難所となる吉備小学校の協力により、体育館と校庭を使用して訓練ができた。参加者は令和6年8月に吉備小にマンホールトイレが設置されたこと、体育館や倉庫に備蓄品が備わっていることを知った。また、自助の観点から、各自で「非常持ち出し袋」を持参してもらい、避難所の備蓄品に頼らず、避難所に向かうときは「非常持ち出し袋」を各々準備して避難する必要があることを実感できた。</li> <li>・中学生ボランティアの活躍 各実習ブースに吉備中学校の生徒がスタッフとして入り、地域の方や岡山市避難所指定職員と活動した。参加者や実行委員からも若者が明るく元気に活動する姿に好感がもてたとの感想があった。</li> <li>・企業の協力 ホームセンターの方による防災用品の実演と説明で参加者は用品の使い方や備え方について学ぶことができた。また、自動車会社の方による災害時の電気自動車の活用法、注意点などについて車の展示を見ていただきながら、専門的な立場から説明してもらうことで理解が深まった。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省会では訓練の内容について、以下の3点があげられた。 ①本部席を設けていなかったため、最初に受付した場所などを本部席として、指示が出せる人が待機しておくことと本当の避難所運営にも役立つと思う。 ②マンホールトイレを今回は危機管理室職員が設置したが、資材を倉庫から出し組み立てる作業までを災害時には地域の方で行うことになるので、次の機会に実践してはどうか(マンホールトイレの基礎工事だけが完了し、資材倉庫は未完成の状態だった)。 ③中学生ボランティアが参加してくれて職員の指示に従い担当場所で活動したが、今後はリーダーを任せて、より主体的な活動にしていきたい。</li> <li>・参加者アンケートで寄せられた、「被災者の体験談を聞いてみたい」「段ボールでトイレの作り方を教えてほしい」「ペットを連れての避難や要配慮者のための防災訓練と勉強会をしたい」などの意見を今後の計画に生かしていきたい。</li> <li>・また、近い将来、発生が予想される南海トラフ地震や近年多発する気象災害などの様々な災害を想定して、町内会の自主防災会や地元法人への呼びかけ、避難所となる学校との連携、若者がボランティアとして参加できるプログラムの企画など、地域で活躍するリーダーの育成を目指していきたい。</li> </ul>

7. 活動の様子

◆8時30分 受付開始(担当:民生委員)



◆9時 開会



◆オリエンテーション (担当:防災ボランティア)



参加者は自宅から非常持ち出し袋を持参しました。各自が背負ってこられる大きさ、重さで中身を工夫し、グループで輪になり紹介しあいました。防災ボランティアから実際の避難所での持ち出し袋の必要性が工夫について説明がありました。

◆煙道テントで視界の悪い中の避難体験

◆起震車で震度7を体験 (担当:岡山西消防署)



大きな地震の後、火災が発生！姿勢を低くして冷静に逃げる練習をしました。



◆給水訓練 (担当:岡山市水道局)



応急給水栓の使用説明と給水車からの給水訓練。

◆マンホールトイレ(担当:危機管理室)



吉備小学校の正門横に8基のマンホールトイレを設置しました。凝固剤で水を固める実験もしました。

◆大鍋での炊き出し訓練（担当：ボーイスカウト都窪第2団）



ハイゼックス袋に白米と水を入れて空気を抜いて縛ります。大鍋で20分程度ゆでて白米が完成！美味しいカレーを食べました。



◆発泡スチロールベッド・段ボールベッドの組み立て（担当：愛育委員）



発泡スチロールベッドは軽く、子どもたちはブロックの要領で簡単に組み立てました。アルコール消毒ができるという利点もあります。



◆防災用品展示・説明・体験

（担当：ナンバホームセンター）



防災グッズの展示や実験装置を使って説明してもらいました。耐震グッズは正しく取り付けましょう！

◆電気自動車展示・防災DVD上映・説明

（担当：トヨタ自動車）



自動車の水没した時の対処方法で避難する時の注意点や役立てる方法を教えてもらいました。

◆12時 閉会式



閉会式では、吉備小学校奥橋校長、西村実行委員長より、防災訓練の必要性や日頃の備えについて振り返りのお話がありました。また、中学生ボランティアには、ボランティア活動証明書が手渡されました。参加者はアンケートに記入後、岡山市より支給されたアルファ化米、水、クラッカーを受け取りました。各家庭で試食することでしょう。

# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立陵南小学校

## 1. 事業趣旨と目的

自助・共助に重点をおいた実習を計画し、住民と地域活動団体が協力して地域防災力を高めることを目的とする。様々な災害に備えて、避難所が開設された際の備蓄、避難経路、避難所運営の体制づくりと防災リーダーの育成をめざす。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	陵南学区防災訓練				
実行委員会名称	陵南学区防災キャンプ実行委員会				
実施期日	第1回	令和6年11月30日から1日間			
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間	
	実習	消火訓練	水消火器を使用した消火訓練		2.5時間
		煙道体験	煙道テントを使用した避難訓練		
		土嚢積み	陵南小の砂場で土嚢づくりと積み方訓練		
		火災VR体験	火災の起こり方をVRで体験		
		防災カードゲーム	火災の原因などをカードゲームで実習		
		簡易ベッド・テント	段ボールベッド、発泡スチロールベッド、テント、間仕切りの組み立て		
車いす体験	車いすの扱い方の実習				
閉会		修了証授与・アンケート記入・片付け	0.5時間		
合 計			3 時間		

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	35名	中学生	19名	高校生	名
未就学時・乳児	4名	家族・地域住民	142名	教職員・施設職員等	3名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1名	無償ボランティア	74名
総 計					278名

## 4. 実行委員会実績

構成員数	23名	主な構成員	陵南学区安全安心ネットワーク・陵南学区自主防災会・吉備中学校、陵南小学校、こども園・小・中PTA、民生委員・児童委員、愛育委員、体育協会、消防団、栄養改善協議会	
会議内容	会議日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間
	9月15日	陵南コミュニティハウス	防災キャンプの概要・チラシ(案)	2時間
	11月19日		日程と役割分担(最終確認)	2時間
合 計			4 時間	

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立陵南小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	公民館ロビー展示(年間常設)				
実 施 期 日		令和	年	月 日 から 日間	
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要		活動時間
	ロビー展	公民館職員	公民館ロビーに掲示して、館の利用者に防災対策について啓発をしている。 4月以降は陵南コミュニティハウスに掲示予定。		時間
合			計		時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生ボランティアの活躍 吉備中学校へボランティアの募集を行い、18名の学生が参加して、会場準備、実習、片付けなど積極的に活動した。 特に、避難所運営ゲームHUGでは各グループでカードの読み手、記録、発表を担う進行役として参加した。参加者から「中学生がテンポよく読み手をしたり、考えをまとめて発表したりして頼もしかった。」との感想があった。</li> <li>・全町内会からの参加 今回も学区の全13町内会が1次避難場所に集合し、学区で作成した避難経路マップを使って徒歩で陵南小学校へ向かった。各町内で、避難経路を確認する機会となった。</li> <li>・学校備蓄品の活用 陵南小学校に備蓄してあるものを実際に使用して訓練を行った。地域の方や学校関係者が備蓄品の保管場所と内容を確認し、使用方法について理解する機会となった。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者アンケートでは、「シミュレーションができて良かった。」「参加して見直すところ、準備するもの、災害に対する意識を高めることができた。」などの感想があり、参加者の防災意識に変化があったものの、「意見の違いがあり、統一されていなかったため、かなり迷う事が多かった。」「指示する人を決めておくことが大事、避難のレイアウトを決めておくことも必要。」との意見もあった。各実習リーダーとの打ち合わせをもっと念入りに行い、スムーズな運営を目指し、実際の災害現場でも的確に指示が出せる人材を養成することが大切であると感じた。</li> <li>・近い将来発生が予想される南海トラフ地震や近年多発する気象災害などの様々な災害を想定して、安全・安心ネットワークのメンバーで訓練内容や日頃の防災活動について話し合う機会を増やし、地域住民の防災意識の向上につなげたい。 また、避難所となる学校との連携、若者がボランティアとして参加できるプログラムの企画など、地域で活躍する防災リーダーの育成を目指していきたい。</li> </ul>

7. 活動の様子

◆9時30分 受付開始(担当:民生委員・児童委員)

◆10時 開会



陵南学区の13町内会が1次避難場所に集合した後、陵南小学校を目指して徒歩で避難してきました。学区で作った避難ルートマップのルートを確認する機会になりました。また、土曜日に陵南学童保育に来ていた子どもと職員も参加しました。10時からグラウンドと体育館の2会場に分かれて実習しました。

◆煙道体験

◆消火訓練



煙で前が見えず、すごく怖かった。夜で真っ暗だともっと逃げるのが大変！避難経路を確認しておきましょう！

◆土のう積み



土のう袋に砂を入れて、ひもで縛って隙間なく重ねます。今回は学校の砂場の砂ですが、砂を準備している町内会もありますね。

◆VR体験



室内で火災が起こるメカニズムを映像で疑似体験しました。冷静に初期消火できるか、考えさせられました。

◆防災カードゲーム



◆毛布担架



◆車いすの押し方



◆災害ボランティア活動パネル



◆発泡スチロールベッドの組み立て



◆災害用テントの設置



◆避難所運営ゲームHUG実施



- ・陵南小学校見取り図を用いたHUG実習では、災害支援ネットワーク岡山世話人代表の森田靖氏を講師にお迎えしました。ゲームの進行や発表を中学生が行い、地域の方と避難所の運営について学びました。
- ・参加者は、アンケートの提出をして岡山市より支給された「アルファ化米・水」を受け取り、家庭内備蓄について考える機会となりました。
- ・中学生ボランティアは、分島実行委員長からボランティア活動証明書を渡していただきました。

# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	上道公民館
実施施設名	平島小学校 体育館

## 1. 事業趣旨と目的

6年前に西日本豪雨の被災地となったため、水害に対する認識はあるが、地震に対する意識はまだまだ低い。  
 能登半島地震をうけ、児童・生徒等と地域住民が、この機に地震発生時の対処法についての知識や備え等について学び、防災意識の高揚を図る。  
 また、地域住民が集うことにより、住民同士で共助できる関係をつくる一助とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	平島学区 防災キャンプ(安全安心ネットワーク祭)			
実行委員会名称	平島学区安全安心ネットワーク			
実施期日	第1回	令和 6 年 6 月 9 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	家具転倒防止ま ちがいさがし		家具転倒防止の対策ができていない部屋の絵と できていない絵を見比べて、まちがいを探す	0.5 時間
	災害伝言ダイヤ ル(171)体験	NTT西日本(株)	災害時の情報伝達のための方法を学ぶ	0.5 時間
	防災クイズ なまずの学校		災害時のトラブルに対応するために、どのよう に身近なものが使えるかを考えるクイズ	0.25 時間
	非常用トイレの 使用法		組立トイレ・便袋・凝固剤の使い方を体験	0.25 時間
	AED体験	消防上道出張所	胸骨圧迫とAED使用についての実習	1.0 時間
	避難所テント・簡 易ベッド組立		パーテーションテント・簡易ベッドの組立体験	0.25 時間
	防災グッズ展示	ナンバホームセン ター	家具固定、非常持出品など、防災グッズをみ て、使い方を知る	0.25 時間
合 計			3.0 時間	

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	8 名	中学生	10 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	1 名	家族・地域住民	58 名	教職員・施設職員等	16 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	68 名
総 計					161 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	39 名	主 な 構 成 員	連合町内会、愛育委員会、民生委員児童委員協議会、平島健康福祉委員会、スポーツ協会、老人クラブ、交通安全対策協議会、交通安全母の会、小学校PTA等		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	4月15日(月)	上道公民館	防災キャンプの内容(スタンプラリーのプログラム等について)		1.5 時間
	4月23日(火)	平島小学校	プログラムや当日の役割分担等について		1.0 時間
	5月12日(日)	平島コミュニティ ハウス	手配状況など進捗状況の共有、広報について		0.5 時間
	6月3日(月)	上道公民館	プログラムの予行演習		1.0 時間
	7月9日(火)	平島小学校	結果の振り返りと反省、今後の活動について		1.0 時間
合 計					5.0 時間

5. 事業成果の周知実績

行事名称							
実施期日	第1回	令和	年	月	日	から	日間
	第2回	令和	年	月	日	から	日間
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要				活動時間
							時間
							時間
							時間
							時間
合						計	時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な体験ブースを設けて、スタンプラリー形式ですべてのプログラムを体験できるようにしたことにより、参加者はもとより、体験ブースを担当したスタッフにとっても、新しい学びを得ることにつながった。</li> <li>・地域全戸および小学校児童全員に広報チラシを配布したが、雨天であったこともあり参加者が少なかった。</li> <li>・また、栄養改善協議会の意見により、時期的に食中毒の恐れがあるということから、炊出しおよび備蓄食材の試食体験ができなかったことも、参加者が少なかった要因の一つかもしれない。</li> <li>・参加者の小学生からは、「知らないことがあったけど、災害の時に自分ができることがわかった。」「雨だったけれど楽しかった。」保護者世代からは、「知っているつもりだったが、知らないことが沢山あり、大変勉強になった。」などの声が聞かれた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、防災キャンプが初めてというスタッフが殆どだったので、どのような体験ブースを設置するかということについては、公民館からの提案の中から選ぶという形になってしまった。</li> <li>・今後は、どのような内容にするかということを地域の人々で、話し合い内容を検討して実施できるようにしていくことが必要であると思う。</li> </ul>

### 7. 活動の様子

#### ● 受付の様子 ●

グループごとに、スタンプラリー形式で各ブースを体験して回りました。



●平島地域のハザードマップを掲示



#### ● 非常用テントや簡易ベッドの組立体験 ●



簡易ベッドは発泡スチロールなので、簡単に組み立てられ、丈夫で寝心地の良さも体験できました。

#### ● 防災クイズ【なまずの学校】 ●



災害が起きた時、物資がない中で、身近な物をどのように利用すればよいかを学びました。

#### ● 災害時伝言ダイヤル【171】 ●

災害時にどのようにして家族や知人と連絡を取ればよいか、模擬電話を使って、体験しました。



● 家具転倒防止まちがい探しゲーム ●



まちがい探しゲームを通して、安全な家具の配置や、正しい家具の固定の仕方を学びました。



● 非常用トイレの使い方を実習 ●



実際に、水と凝固剤を使って、非常時のトイレの使い方を実習しました。また、自宅でもどれくらい準備しておけばよいかも学びました。

● AED/心臓マッサージ体験 ●



AEDの後の、心臓マッサージ(胸骨圧迫)の体験をする機会が少ないが、とても重要。実際に体験することで、正しい胸骨圧迫の仕方を学びました。

● 防災グッズの展示 ●



ホームセンターに協力いただき、様々な防災グッズを実際に手に取って見る事ができました。知らなかったグッズも色々ありました。



# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	足守公民館
実施施設名	蛍明小学校 体育館・運動場

## 1. 事業趣旨と目的

あしもり学園の児童・生徒等青少年と、地域住民が避難所体験など防災に関する体験や交流をすることで、地域における防災意識の高揚に努める。  
また、同じ蛍明小学校区の他地区(旧高田小、福谷小学区)の方々にも参加してもらうことで、蛍明小学校区全体での取り組みにつなげる機会とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ			
実行委員会名称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 11 月 10 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講座	(社)ほっとおかやま はっとりいくよ	座学:能登半島地震から学ぶ避難所運営 ほか	1 時間
	防災講座	消防大井大井分団 防災士	座学:災害時のトイレのおはし	0.5 時間
	わが家の非常持出袋	地域のみなさん	地域のみなさんが備えている非常持出袋を展示、解説	0.5 時間
	ブルーシートでテントづくり	公民館 防災士	全員でブルーシートを用いたテントを設営	0.5 時間
	炊き出し訓練	大井地区婦人会	ハイゼックス袋で炊飯し紙食器づくりを全員で学ぶ	2 時間
				時間
合 計				4.5 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	14 名	中学生	0 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	4 名	家族・地域住民	55 名	教職員・施設職員等	5 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	0 名
総 計					78 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	23 名	主 な 構 成 員	大井地区安全安心ネットワーク構成メンバー		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	8月10日	福祉交流プラザ 大井	防災キャンプについて説明～日程		1 時間
	9月7日	福祉交流プラザ 大井	プログラム内容について		2 時間
	10月12日	福祉交流プラザ 大井	役割分担について		2 時間
	12月7日	福祉交流プラザ 大井	ふりかえり		2 時間
					時間
合 計					7 時間

公民館名	足守公民館
実施施設名	蛭明小学校 体育館・運動場

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 12 月 14 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	報告書作成	実行委員	アンケート集計、画像編集、文章作成、印刷	2 時間
				時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

### 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回ということもあり、実行委員会はスムーズに運営できるようになった。</li> <li>・参加者、特に小学生の参加を促すために小学校PTAの意見を多く取り入れるようにしたところ、子供たちの関心を引き、散漫になることなく成功した。</li> <li>・地域の防災士の協力もあり防災ネットワークを広げることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し訓練において、婦人会の皆さんに負担がかかってしまい、座学などの講座をうけることができなかった。</li> <li>・また、子供たちの参加を促すには夏休みを利用して夜間の日帰り防災キャンプを検討するなど工夫が必要と感じた。</li> </ul>



# 令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立旭東公民館

実施施設名

岡山市立可知小学校

## 1. 事業趣旨と目的

児童・生徒等の青少年と地域住民が、避難所にも指定されている小学校において、地震を想定した様々な体験活動を通して、地域における防災意識の高揚を図るとともに、児童・生徒等の青少年と地域住民間の相互交流することができる機会とする。またその後、親子で防災について考え話し合うきっかけとなることを期待したい。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	ぼうさいデイキャンプ			
実行委員会名称	可知学区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 12 月 8 日	から	1 日間
	第2回	令和 年 月 日	から	日間
	第3回	令和 年 月 日	から	日間
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	受付 開会式	町内各関係団体	町内ごとに受付・班別連絡 実行委員長挨拶	0.2 時間
	体験活動	消防署・消防団	起震車 水消火器 骨折応急処置 簡易トイレ利用 心肺蘇生 AED操作	1.8 時間
	演奏・講話視聴	消防音楽隊	消防音楽隊の演奏 防災講話	0.9 時間
	閉会式 アンケート	町内各関係団体	消防の方へのお礼 本日の振り返り	0.2 時間
	非常食試食	町内各関係団体	非常食試食 備蓄食料(参加賞)配布	0.4 時間
合 計				3.5 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	65 名	中学生	0 名	高校生	5 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	210 名	教職員・施設職員等	5 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	50 名
総 計					340 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	30 名	主 な 構 成 員	可知学区連合防災会 可知学区コミュニティ協議会		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	6月9日	可知コミュニティハウス	防災キャンプの実施に向けて		1.0 時間
	10月18日	東消防署可知出張所	体験活動及び消防音楽隊演奏・防災講話について		1.0 時間
	10月19日	可知コミュニティハウス	防災キャンプの内容と役割・準備物分担		1.5 時間
	12月8日	可知小学校	防災キャンプのスケジュールと役割・会場準備確認		0.5 時間
合 計					4.0 時間

公民館名	岡山市立旭東公民館
実施施設名	岡山市立可知小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	旭東公民館でロビー展示(第1回) 可知コミュニティハウスでロビー展示(第2回)			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 12 月 16 日 から 約1か月間		
	第2回	令和 7 年 1 月 27 日 から 約1か月間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	ロビー展	公民館職員	活動の様子や参加者の感想が分かる模造紙を掲示	時間
				時間
合 計				0 時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>・各町内で集まって避難所にも指定されている可知小学校への移動を含めた防災訓練を、毎年継続して行っている。今回のような子どもを巻き込んだ防災行事は初めてである。子どもを巻き込むことにより、親である20～50代の参加も多く、防災行事に関わる参加者の幅を広げることができた。その年代の参加者からも「様々な防災に関することが学べてよかった。」「来年もぜひ参加したい。」という感想をいただいた。</p> <p>・アンケート「今日体験したことや学習したことはこれからの生活に役に立つと思いますか」に対して、「とても役に立つと思う」105名、「役に立つと思う」59名、「あまり役に立つと思わない」0名、「役に立つと思わない」0名であった。また、「これからもこのような活動や公民館などで開かれる防災講座に参加してみようと思いますか」に対しては「とても思う」105名、「少し思う」57名、「あまり思わない」1名、「ぜんぜん思わない」1名であった。事業目的の一つである「地域における防災意識の高揚を図る」ことへの一助になったと考える。</p> <p>・約50名のスタッフがそれぞれの役割を果たし、本事業を実施することができた。地域の各町内会長や関係団体が防災意識をもち、快く声掛けや担当をされて、その思いが参加した地域住民にも伝わっていたように感じる。班別誘導係では、高校生・大学生が担当する姿も見られた。消防音楽隊による生演奏も好評で、大変ありがたかった。</p>
今後の課題	<p>・アンケートへの自由記述で80代の方から「消火等、大人のみの方がよい。」「2歳の子に消火活動させているのに驚いた。」という感想をいただいた。実際は子どもにはさせることのないもったもんな意見である。事業目的の一つである「子どもと地域住民間の相互交流をする機会とする」ということの実例として、事前の開会式で伝えておけばよかったと考える。</p> <p>・アンケートへの自由記述で40代の方から「AEDが実際可知学区のどこにあるのか。」「水害の時、地震の時、ペットを連れてくる時など、本当に災害になった時を想定した訓練もあるとよい。」という意見をいただいた。今後、「AEDなどの場所がわかる防災マップづくり」や「避難所運営訓練」などを実施してもよいと思われる。</p> <p>・可知学区では、夏祭り「くすのきフェスタ」では準備時からたくさんの中高校生ボランティアが参加する様子が見られた。可能ならこのような防災行事においても「防災クイズ」「簡単な防災グッズ作り」など、中高生ボランティアが活躍できる場を提案してもよいかと考える。</p>

7. 活動の様子

☆8:00～スタッフ集合 打ち合わせ後、担当・係ごとにそれぞれ準備をしました。

☆8:30～避難所開設運営・受付開始



☆9:00～開会式

班別に整列して、

①実行委員長の挨拶

②日程説明・諸連絡

を行いました。



☆9:10～体験活動開始 4班に分かれて班別誘導係の先導で各活動を体験しました。

①起震車体験

②水消火器体験

③骨折応急処置の仕方



④簡易トイレ利用の仕方

⑤心肺蘇生法体験

⑥AED操作の仕方



☆11:00～演奏会 岡山市消防音楽隊の素晴らしい演奏と防災講話を視聴しました。



☆12:05～アンケート記入・非常食試食 温かいカレーをいただきました。



☆12:20頃～備蓄食料受け取り

町内ごとに町内会長から備蓄食料(アルファ米・水  
\*子どもはクラッカーも)を受け取り解散しました。



◆◆164名からアンケートの回答をいただきました◆◆

<子どもの感想から>

- ・これからは今日のことを生かして、非常食などを準備しておこうと思う。
- ・今日習ったことを災害などで生かしたい。 ・地震体験車がこわかった。
- ・普段出来ないことが体験できてとても良かった。いろいろ学べてよかった。
- ・消防の人の話で、あまりコンセントにさしすぎない方が良いということがわかった。

<大人の感想から>

- ・子どもと参加して少し大変でしたが、防災について子どもとふれることができて良かったです。
- ・家族5人で参加しました。2歳児も楽しそうでした。 ・演奏会もあってよかった。
- ・地震体験車の震度6はこわかったです。いい経験でした。
- ・これまで防災の意識が低かったので、これを機にいろいろと参加しようと思った。
- ・起震車を体験したことで自宅の防災についてさらに考え直しをし、家族・町内単位で考え行動を起こさないといけないと思った。
- ・少し長いかなと思っていましたが、とても充実していてあっという間でした。
- ・心臓マッサージとAEDの使い方を知ることができてよかった。直接質問もできた。

♠♠たくさんのスタッフに支えられて実施することができました♠♠

・東消防署可知出張所・可知分団	体験活動担当
・連合町内会(単位町内会長)	各町内の取りまとめ・参加賞配布係
・連合防災会役員	受付係
・民生委員・児童委員協議会	班別色ガムテープ配布係
・愛育委員会	備蓄食料袋詰め・非常食配布係
・栄養改善協議会	非常食買い出し・調理・配布係
・スポーツ協会	班別誘導係
・交通安全母の会	くつ袋・アンケート用紙配布係
・防犯母の会	簡易トイレ利用の説明係
・公民館	進行・記録係 簡易トイレ利用の補助